

このページは、小・中学生向け  
て梅光学院大学子ども学部子ども  
未来学科(地域共生ゼミ)の学生が  
作っています。

※イラスト 渡邊志帆さん、原田陽さん

# しものせき キッズページ



## しものせき みなと 「下関の港のはなし」



▲長州出島に並ぶ中古自動車。月一度は大きな輸送船がこの港に立ち寄ります。

### 馬関港開港150周年!

1864年、下関戦争でイギリス・フランス・オランダ・アメリカの四国連合艦隊に敗れた長州藩は、戦争終結のための講和を結ぶため、高杉晋作をこの講和の使節に任命しました。講和を結んだ後、外国船が自由に関門海峡を行き来できるようになり、こうして馬関港(下関港の当時の呼び名)は、事実上の開港を迎えました。



下関市は、古くから港を中心に発展してきた国際都市であると言えます。今回は、下関の港について紹介します。

### 下関港沖合人工島・長州出島での貿易



下関港は、その役割によって6つの地区に分かれており、世界の国々と活発な貿易を行っています。下関港の中で一番新しい港が、垢田の日本海側沖合い約1キロを埋め立てて作られた「長州出島」です。長州出島は関門海峡外にあるため、東アジア方面からの船は、関門海峡を通らないうちに行けない本港地区よりも、長州出島に入港する方がターミナルに早く着くことができます、とても便利です。水深12メートルの岸壁が整備されており、大きな

1889年に赤間関市(現在は下関市)として市制が施行され、港は赤間関港と呼ばれるようになりました。1899年には第一種港湾に指定され、外国との貿易ができるようになりました。1902年に市の名称が下関市と改称されたことで、港の名前も、赤間関港から下関港に変わりました。1999年には、正式な国際貿易港として外国との貿易を開始して100周年、今年は1864年の馬関港開港から150周年を迎えました。東アジアを中心とした貿易の拠点として、今後のより一層の発展を目指しています。

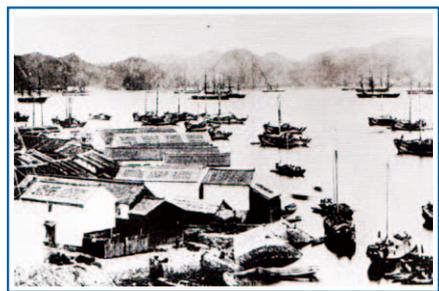
### 馬関港開港150周年記念イベント



馬関港開港150周年を記念して、今年、さまざまな記念イベントが行われています。あるかぼーとに、10月21日、世界一周やオセアニア諸島を主にまわっている「ばしふいづくびな」という客船が入港しました。11月18日には、「飛鳥II」という客船が入港します。これも「ばしふいづくびな」と同じで世界一周できる客船です。この時馬関deバザール」というイベントがあり、特産品を販売したり、ふく鍋が提供されたりします。ぜひ11月18日にあるかぼーとに来て豪華客船を見てみましょう!

船も入港できます。現在、長州出島の国際物流ターミナルには、海外に輸出する多くの中古自動車があります。月に一回、運搬船に積み、アフリカなど海外に輸出しています。日本の車は、海外で人気があるというところで、車に書かれた漢字や平仮名などは消さずに輸送するそうです。

11月号の編集記者  
村田宏仁さん(後列一番左)、  
久間省吾さん(後列右から2番目)、  
伊藤靖予さん(前列右)



▲馬関港が開港した年の関門海峡。沖には四国連合艦隊の軍艦が見えます。岬之町付近(1864年)。



▲6月にあるかぼーとに入港した客船「にっぽん丸」。記念イベントとして船内見学会がありました。